

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の所在地(※4)
宇治茶のはじまり(鎌倉時代)				
1	黄檗山萬福寺門前の 「駒蹄影園跡碑」	未指定	<ul style="list-style-type: none"> ・宇治の里人が茶の種の蒔き方がわからず困っていたところ、明恵上人(1173年-1232年)が馬に乗ったまま畑に乗り入れ、その蹄の跡に種を蒔くように教えた伝説が記される ・明恵上人の唄「都賀山乃尾上の茶の木分植え あと曾生べし 駒濃蹄影」が記されている 	宇治市
宇治茶の確立と初期の景観(室町時代～戦国時代～江戸時代初期)				
2	「奥ノ山」茶園	国重要文化的景観	<ul style="list-style-type: none"> ・室町幕府三代将軍足利義満や八代将軍足利義政が認める七名園の唯一の現存茶園 ・宇治市内には他の七名園跡に碑(森、川下、奥ノ山、朝日、琵琶)が建っている 	宇治市
3	興聖寺	国重要文化的景観 府指定名勝 府文化財環境保全地区 市指定有形文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・1233年創建の曹洞宗最初の寺院 ・室町時代に七名園の一つとして知られた「朝日茶園」の地に建つ ・参道の琴坂は紅葉の名所でもある ・毎年10月の宇治茶まつりでは、茶壺口切の儀や境内の茶筌塚前で茶筌塚供養が行われる 	宇治市
4	茶陶「朝日焼」	国重要文化的景観	<ul style="list-style-type: none"> ・室町時代の七名園の一つ「朝日茶園」の地 ・茶人・小堀遠州ゆかり、遠州七窯の一つ 	宇治市
5	白川地区の茶畑	国重要文化的景観	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な本簀、寒冷紗による覆下茶園群 ・鮮やかな濃緑色のうまみの強い抹茶用の碾茶栽培に始まり、現在は碾茶及び玉露を栽培 	宇治市

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
27	稲八妻 <small>いなやづま</small> 医師茶園	未指定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄西の『喫茶養生記』以来、茶は薬として重宝されていたが、茶産地のこの地では、町医者が自宅に隣接して茶園を営み、茶葉を確保しており、現在もその茶園跡が認められる ・ この町医者は、豊臣秀吉に馬回りとして仕えた山中又左右衛門丞氏清<small>やまなかまたささむねのじょううじきよ</small>で、武士を捨て稲八妻に町医者として居を構え、近年まで代々町医者を営み、屋敷内に累代の墓石を有する 	精華町
6	中宇治の街並み	国重要文化的 景観	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上林春松家などの茶師・茶問屋街。合組を行い茶人の好みに合わせた茶を作る創意工夫を重ねる 	宇治市
7	宇治川	国重要文化的 景観 重文(浮島十三重塔)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良時代以前から水陸交通の要衝 ・ 菟道稚郎子や橘姫の伝承や源氏物語(浮舟 匂宮との逢瀬の舞台)、宇治川合戦、源頼政・扇の芝など話題豊富 	宇治市ほか
8	宇治橋	国重要文化的 景観 重文(宇治橋断碑)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 646年架橋、日本三古橋の一つ ・ 茶店「通圓」の十一代の主は、名水と言われる宇治川の水を「三の間」から汲み上げ、伏見城の豊臣秀吉のもとに届けたといわれる 	宇治市
9	通圓 <small>つうえん</small> 茶屋	国重要文化的 景観	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宇治橋東詰にて1160年創業の茶店で橋守、現店舗は1672年築で「都名所図会」に描かれる ・ 店内には一休禪師作の初代通圓木像が祀られている 	宇治市
28	橋寺放生院 <small>はしでらほうじょういん</small>	国重要文化的 景観 重文(宇治橋断碑、浮島十三重塔)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 名水汲み上げの儀を行う宇治橋を管理していた寺。そのことから橋寺と称される ・ 境内に「木がくれて 茶摘もきくや時鳥」の芭蕉の句碑を残す 	宇治市

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
煎茶、玉露の誕生と新しい景観・煎茶 (江戸時代前期～中期)				
10	おろばくさんまんぶくじ 黄檗山萬福寺	重文(大雄宝殿、紙本著色 隠元和尚像など多数) 境内は府史跡	<ul style="list-style-type: none"> ・隠元禪師が1654年「淹茶法(お茶をお湯にひたしてエキスを飲む方法)」を普及 ・売茶翁由来の寺 ・「淹茶法」に着想を得て、永谷宗円が今日まで飲まれている「青製煎茶製法」を考案した ・中国風の伽藍、お経も中国読み ・門前に、江戸時代後期の俳人・田上菊舎の「山門を出ずれば日本ぞ茶摘み唄」の句碑がある 	宇治市
11	ながたにそうえん 永谷宗円生家	府景観資産 町指定文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・1681年生、日本特有の煎茶を發明(1738年)した ・湯屋谷の生家内には宗円が發明した青製煎茶法に欠かせない焙炉跡が当時のまま据えられている ・近くに茶宗明神社が鎮座 ・生家内座敷にて湯屋谷産の煎茶を喫することができる 	宇治田原町
12	ゆやだに 湯屋谷の茶畑、茶農家、 茶問屋の街並み	府景観資産 (湯屋谷の茶畑)	<ul style="list-style-type: none"> ・煎茶を生産する茶農家と問屋による集落が形成 	宇治田原町
13	ゆぶね はらやま 湯船・原山の茶畑	府景観資産 府文化的景観 (原山)	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模な山なり茶園と茶農家集落 ・縁側カフェ等で和東産の煎茶を喫茶可 ・海住山寺の中興第二世慈心上人は、明恵上人から茶の種子を与えられ、鷲峰山の麓の「原山」に植えたといわれている 	和束町
14	かいじゅうせんじ 海住山寺	国宝(五重塔) 重文(文殊堂、 木造十一面観音立像など)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の南山城で、最も多くの茶を生産する和束町の茶は、鎌倉時代に海住山寺にいた高僧「慈心上人(1170-1243)」が明恵上人から茶の種子を受け取り、鷲峰山の麓「原山」に栽培したのが始まりといわれている 	木津川市

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
15	鷲峰山 金胎寺	重文(多宝塔、宝篋印塔、木造弥勒菩薩坐像など) 境内は国史跡	<ul style="list-style-type: none"> 役行者によって開かれたと伝わる修験道修行の山寺(北大峰) 鷲峰山 金胎寺の山麓にある「原山」に初めて茶の種子をもたらしたのは、海住山寺中興二世「慈心上人」といわれている 	和束町
煎茶、玉露の誕生と新しい景観・玉露(江戸時代後期)				
16	流れ橋と両岸上津屋・浜台の「浜茶」	八幡市域：府景観資産 城陽市域：府景観資産 久御山町域：府景観資産申請予定	<ul style="list-style-type: none"> 19世紀後期まで抹茶(碾茶)栽培は宇治茶師のみに認められていたが、玉露は規制がなく、木津川河川敷に覆下茶園が広がった 木津川の両岸を時代劇映画のロケ地として知られる長大(356m)な木製の「流れ橋」がつないでおり、橋のたもとの砂地で肥沃な河川敷に広がる茶園(上津屋、浜台)は特に「浜茶」と呼ばれる。住民と田畑を守る築堤にあたっても、あえて、自然に沃土が運ばれてくる堤の河川側に茶園群を残そうとしたため、堤防は茶園を避け迂回する形状となっている。良質な碾茶の地として有名で、古くからの実生茶園(茶の実から栽培する茶園)も残っている 	八幡市 城陽市 久御山町
17	飯岡の茶畑	府景観資産	<ul style="list-style-type: none"> 玉露の産地として有名 丘陵に配置された覆下茶園群で、丘陵周囲の水田、上部の集落という垂直配置が特徴的な景観をつくっている 	京田辺市
宇治茶の近代景観(幕末～昭和)				
29	多賀の「森の茶園」	未指定	<ul style="list-style-type: none"> 多賀地域では、享保年間に奥山新田が開かれたが、茶葉の需要拡大に応え茶畑を山奥にまで広げた。その後の需給関係により茶生産から撤退する農家が出て多くが森に戻ったが、森の中にあるからこそ良質な茶葉が生産される茶園のみが現在に残り、「森の茶園」となった。この間に生産に求められた量から質への遷移を物語っている この地での天保年間の「茶摘賃」や「ほいろ賃」の記録が残っている 	井手町

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
18	童仙房・高尾・田山・今山の茶畑 <small>どうせんぼう たかお たやま いまやま</small>	府景観資産 府文化的景観	<ul style="list-style-type: none"> 大規模な山なり茶園と、茶園に囲まれ点在する茶農家群 「童仙房」は、明治初期に京都府主導により士族を転住させ開拓、府の支庁を設け、輸出増に対応すべく茶業振興に努めた地 	南山城村
19	上猫茶問屋街 <small>かみこま</small>	未指定	<ul style="list-style-type: none"> 山城各地から集められたお茶が木津川、淀川を経て神戸港に運ばれ、世界へ輸出された。「東神戸今神戸」とも呼ばれた。 地区内には、奈良時代に行基が開いた泉橋院を前身とする泉橋寺があり、境内の地藏菩薩石像は鎌倉時代につくられたもので、高さは約4.58m、丸彫の石仏としては、日本有数の大きさとして有名 	木津川市
20	石寺・白栖・撰原・釜塚の茶畑 <small>いしてら しらす えりはら かまつか</small>	府景観資産 (石寺、撰原、釜塚) 府文化的景観	<ul style="list-style-type: none"> 大規模な山なり茶園と茶農家集落 縁側カフェ等で和東産の煎茶を喫茶可 	和束町
30	笠置有市の茶畑・索道台跡	未指定	<ul style="list-style-type: none"> 深い峡谷状の地形にも関わらず、昭和30年から40年代の最大の茶葉生産拡大期に道路もない山腹・山頂近くに本格的に茶園を拓いたものの、背負い籠での茶葉・肥料運びは困難を極めた そのため、他の産地では見られない1200mに及ぶ索道を設け、肥料の荷揚げ、茶葉の荷下ろしに活用した。極度の条件不利地での生産を物語る上で不可欠の資産である。 	笠置町
宇治茶、お茶文化の継承への取組				
21	宇治神社 <small>うじじんじや</small>	重文(本殿、木造菟道稚郎子命坐像)	<ul style="list-style-type: none"> 宇治郷の産土神。応神、仁徳、菟道稚郎子を祭神とする 宇治神社の宮司が毎年10月の「宇治茶まつり」で「名水汲み上げの儀」から「茶壺口切りの儀」の行われる「興聖寺」までの道中を先導する 境内には、江戸時代中期の女流俳人・秋色の「献上の茶を揉む 老の力かな」の句碑がある 	宇治市

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
2 2	宇治上神社 <small>うじがみじんじや</small>	国宝(本殿、拝殿等) 重文(本殿扉絵)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界文化遺産「古都京都の文化財」 ・古くは「宇治神社」と二社一体の存在であった ・現存最古の神社建築 ・宇治七名水の一つ「桐原水」<small>きりはらすい</small> 	宇治市
2 3	宇治茶手もみ製茶技術	府指定無形民俗文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・近世以降伝承されている宇治茶の製茶技術。製茶機械の操作技術の原点 ・府民の生活文化の典型であり、資料的にも価値の高い貴重な民俗技術 ・日本各地に伝えられた手もみ製茶技術の原点 	保護団体： 宇治茶製法手もみ技術保存会連絡会議
2 4	名水汲み上げの儀	未指定	<ul style="list-style-type: none"> ・豊臣秀吉の故事に倣い、宇治橋「三の間」からシュロ縄につるした釣瓶で清水を汲み上げ、竹筒に移し、当時は想わせる衣装に身をつつんだ行列により、献茶の行われる右岸の興聖寺に大切に運ばれる 	宇治市
2 5	茶壺口切の儀	未指定	<ul style="list-style-type: none"> ・八十八夜頃に摘まれた新茶を入れ、この日まで封をして仏前に供えられていた茶壺の口を切り、石臼で抹茶に仕上げ、汲み上げた三の間の名水を使ったお湯でお茶を点て、茶祖に献茶する 	宇治市
2 6	茶筌塚供養の儀	未指定	<ul style="list-style-type: none"> ・興聖寺山門前の茶筌塚で使い古した茶筌の供養法要が営まれる 	宇治市
3 1	京都府立木津高等学校付属茶園、製茶工場	未指定	<ul style="list-style-type: none"> ・明治 34 年(1901)、茶業人材育成のための相楽郡立農学校として開校。1922 年に京都府移管、1948 年には新制高校に。この間、一貫して宇治茶の生産、製茶の後継者教育を行ってきており、茶業関係の卒業生は 805 人を数え(2014 年末時点)、現在も我が国唯一の茶業教育を行う高等学校として続く ・現在地に移転(1918)、1926 年茶業関係団体の寄付により整備した茶園、製茶工場を有し後進の育成に当たっている 	木津川市

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
32	京都府茶業研究所付属茶園	国重要文化的 景観	<ul style="list-style-type: none"> 大正3年(1914)開設の茶樹栽培試験用地を前身に、京都府が大正14年(1925)設置。製茶機械及び生産技術の開発から出発、昭和14年(1939)からは在来茶園の原樹から20の優良系統を選抜し、開発した「無かん水挿し木育苗法」とともに、生産農家に広め、良品種・多収穫の生産向上に貢献。現在も付属茶園内に当該優良系統樹を「遺伝資源園・採梢園」として保存、活用している 	宇治市